

令和2年度 天王寺区区政会議委員評価シート（集計）

集計委員人数計： 17 人

【評価】 4…思う 3…やや思う 2…あまり思わない 1…思わない

1. 【様式2】各経営課題において取り組んだ内容は、総合的に見て、めざすべき将来像の実現に有効であったと思いますか？

経営課題	めざすべき将来像	評価 (人数)				平均点	出された意見
		4	3	2	1		
【経営課題1】 区民の声集約と反映プロセスの強化	・市民満足を高める能力を備えた区役所職員が、性別・年齢・居住年数等において多様な「サイレント・マジョリティ」を含めた区民の声を的確に把握し、区政運営への反映に取り組み、住民主体の自治の実現、区民に身近な総合行政の拠点としての区役所づくり、区民が満足・納得できる区役所運営が図られている状態	5	8	3	1	3.0	・区政会議やつなげ隊、団体などとの懇談会でよく声を聞いている ・利用時、受付担当者の対応の仕方など職員の対応能力の向上が見られた ・窓口対応は以前より随分良くなっていると感じる ・以前より区役所が利用しやすくなった ・提出書類のテンプレートが手書きをメインに考えられているように思われる
【経営課題2】 「世界に通じる文教『都市』」をめざした人材育成の取組	・未来を担う人材育成に、乳幼児期から取り組んでいる状態 ・学校教育に加えて、子どもが社会で生きて行く力を育むための「社会教育」の機会が提供されている状態	5	8	3	1	3.0	・天王寺区独自のサポートがある ・教育に熱心な世帯が多いのでめざす方向は同じ ・行政と民間事業者の連携融合を計ってほしい ・コロナ過でもできる活動を考えて取り組めるようにしてほしい ・コロナウイルスの状況を踏まえた計画を再策定する必要があると思われる ・スポーツを含めた社会教育を考えてほしい
【経営課題3】 支援を要する一人ひとりの命を守り抜く地域福祉	・急病時・災害時に支援を要する人が孤立しないよう、見守り体制が構築され、見守りが必要な全ての人が見守られている状態 ・全ての高齢者が交流できている状態 ・全ての区民が健康に関心を持ちいきいきと生活できている状態	4	7	5	1	2.8	・ボランティア同士の意見交換・交流が見守りの充実に繋がる ・地域の様々な行事にお誘いし、見守る側、見守られる側が顔と名前を覚えることが災害時支援に繋がる ・コロナ過で高齢者の孤立化が進んでいるように感じる ・LINE相談など新しいツールの開拓を検討してみてもどうか ・災害時の高齢者の移動方法など細かく決めておく必要がある

<p>【経営課題4】 地域の力を結集した「防災力」向上の取組</p>	<p>・防災力の向上による区民の自助・共助力の強化、並びに公助力の充実を図ることにより、いつ大災害が起きても区民の命が守られ、ライフラインが途絶しても1週間、自宅または避難所で安心して生活(生き残れる)ができる状態</p>	3	7	6	1	2.7	<p>・区民一人ひとりが自助の力をつけるようにしないといけない ・緊急時に地域で共助を発揮するためには、地域の防災会議を実施すべき ・在宅避難者の連絡体制をどうするか検討する必要がある ・新規に建設される集合住宅に対しての計画段階からの積極的な指導が必要ではないか ・防犯カメラの設置が多く見られる</p>
<p>【経営課題5】 戦略的なシティ・プロモーションの推進</p>	<p>・歴史的・文化的資産を活かして多くの人が集いにぎわうまち</p>	6	6	4	1	3.0	<p>・歴史的・文化的資産を活かして取組がされている ・真田丸や聖徳太子などスポット的な取組は見えるが、もっと長期的な取組が必要ではないか ・真田氏関係の充実を図ってほしい</p>
<p>【経営課題6】 大きな公共を担う活力ある地域社会づくり</p>	<p>・多様な活動主体が協働し、「自らの地域のことは自らの地域が決める」という意識のもと、地域の課題の解消に取り組む住民主体の自律的な地域運営が進められている状態</p>	5	7	3	1	3.0	<p>・身近なつながりは町会であるべき ・地域社会ができるのには長期的な取組が必要だが、地活協等の予算が単年度会計であり中長期的な取組に向いていない ・ICTの導入がすすんでいない</p>

2. 上記のような天王寺区の経営課題は、区の目標の実現に有効であったと思いますか？

区の目標(何をめざすのか)	評価数(人数)				平均点	出された意見
	4	3	2	1		
<p>・みんなの「思い」が区政に反映されているまち ・未来を担う人材が育つまち～世界に通じる文教「都市」の実現～ ・「命を守る政策」がしっかりと進められているまち ・歴史的・文化的資産を活かして多くの人が集いにぎわうまち ・つながりあい、支え合い、助け合うまち</p>	6	7	4	0	3.1	<p>・こどもの居場所・カウンセリング・高齢者見守りなどが十分機能している ・グローバルな人材を育てる必要あり ・歴史のあるまちをもっと広報できないか ・小学生や高齢者への取組は多いが、中学・高校・大学・社会人となっていくにつれて地域との接点が少なくなっているように思う</p>